

(仮称)史跡棚底城跡ガイダンス施設整備基本構想

2 0 2 3

天草市教育委員会

(仮称)史跡ガイダンス施設整備基本構想

目次

第1章	基本理念	1
(1)	構想の背景	1
(2)	目指すべき姿	2
(3)	基本理念	3
(4)	建設予定地	3
(5)	建築空間構成の考え方	3
(6)	施設に持たせる機能	5
(7)	諸室計画と建物規模	9
第2章	管理運営計画	10
(1)	管理運営の考え方	10
(2)	運営形態	10
(3)	料金設定	10
第3章	実現に向けた課題	11
(1)	関係機関との協力	11
(2)	体制整備	11
(3)	その他	11

第1章 基本理念

(1) 構想の背景

天草市は、本渡市・牛深市・有明町・倉岳町・御所浦町・栖本町・五和町・新和町・天草町・河浦町の2市8町が合併して成立した。このうち倉岳町では町史編纂事業を進める過程で中世城郭である棚底城跡を発見・調査した。

平成18年の市町合併後も調査を継続し、平成21年7月23日には「肥後天草地域の政治・軍事の変遷を知るうえで貴重な遺跡」として国史跡に指定された。同年9月16日から天草市が管理団体となり、平成23年度に保存管理計画、平成28年度に整備活用基本計画、令和元年度に基本設計を作成した。

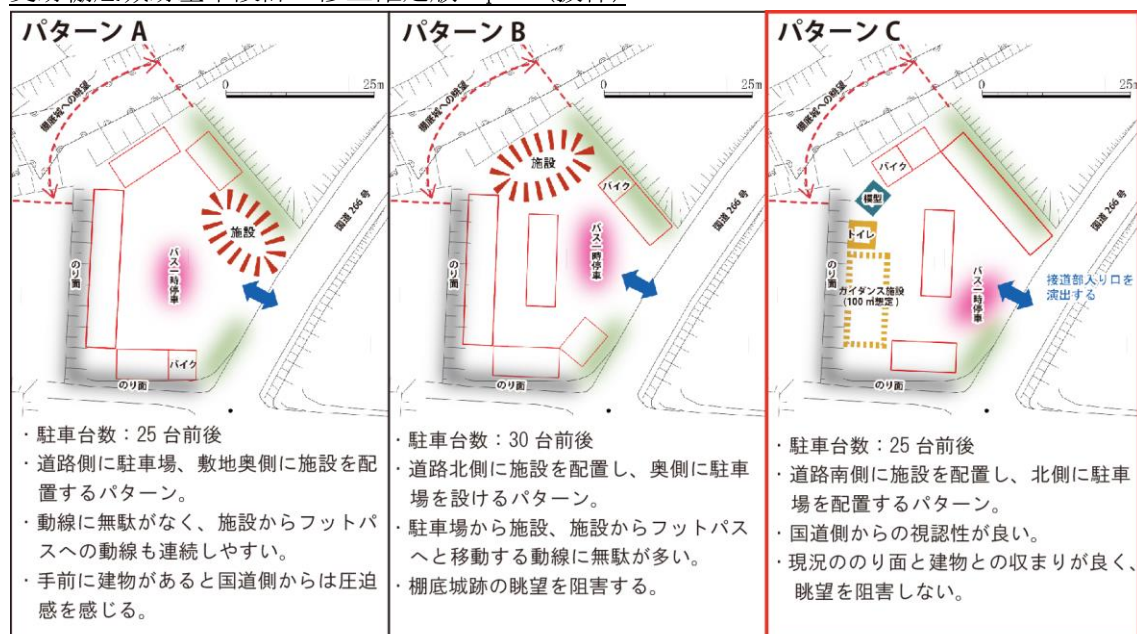
そうした中で、史跡棚底城跡と後に仮称天草五人衆関連城郭群としての追加指定を目指す城跡を軸としたガイダンス施設の建設を計画している。これは、平成28年度に策定した整備活用基本計画において明記されたものであり、基本設計では概ねの施設配置等を検討している。

史跡棚底城跡整備活用基本計画書 p.42(抜粋)

史跡棚底城跡の価値、天草五人衆の歴史・城郭をわかりやすく紹介するために、ガイダンス施設の整備を検討する。史跡棚底城跡においては、出土遺物の価値も大きな比重を占めるため、現在、倉岳支所ロビーで展示している遺物群などが展示できる壁型ガラスケースやスイッチ式映像案内設備等も含めた総合的なガイダンス施設を前提とする。

また、観光交流拠点としての役割も求められることから、史跡ガイダンス施設のみならず、物産館等複合的施設の整備も含めて検討を行う。これらの施設設置計画は、整備及び整備後の維持管理にも大きなコストを伴うことから、本計画とは別に庁内関係部署を中心とした検討プロジェクトを設け、どのように進めるかを別途協議し、事業を推進する。

史跡棚底城跡基本設計 修正確定版 p.71(抜粋)



ガイダンス施設の建設時期は、物産館等複合施設(道の駅)としての整備を含めて別プロジェクトで並行して検討を行う方向性があったことから、令和9年度以降に着手することとしていた。

そうした中で、令和4年12月5日に棚底地区振興会から市長へ「棚底城跡を主としたガイダンス施設の早期建設」の陳情が行われた。この中でガイダンス施設に持たせてほしい機能が4点挙げられている。

要望事項より抜粋

- (1) 防災機能と十分な駐車場の確保、また避難電源が確保できWi-Fi等情報発信・受信可能な設備の確保。
- (2) 常時使用できるトイレと多目的トイレ(少し広め)の設置。
- (3) 倉岳歴史民俗資料館の資料の一部を展示できるスペースの確保。
- (4) マルシェのできるスペースの確保。

令和5年に倉岳支所庁舎は法定耐用年数(築50年)を超えた。現在使用している支所庁舎は、旧倉岳町役場として建設したため、職員数19人(会計年度任用職員含む)に対して余剰空間が発生している。加えて、大規模な改修工事を行って長寿命化を図ったとしても、雨漏りや外壁塗装の剥がれ等の発生は避けられない。

以上の経緯から、史跡棚底城跡とまちづくりの連携、施設建設・管理運営でのコスト面等を踏まえてガイダンス施設と支所の複合化を検討した。本構想は、特にガイダンス施設について市の方向性を定めることを目的として策定する。

(2) 目指すべき姿

棚底城跡の史跡整備とガイダンス施設は、来訪者が棚底城跡の学術的・歴史的価値について、史跡と施設を一体的に活用することで理解を深める場を提供するものである。これと同時に追加指定を目指す中世城郭群の普及啓発を行う場でもある。

天草諸島に点在する中世城跡や関連する文化財について「島嶼地域の城郭網形成」を基軸として、ネットワーク化し、保存活用することが必要である。これにより、他市町村との広域連携した文化的な活用を図ることが可能となってくる。将来的には、本施設が、国衆の城郭研究の情報発信基地となり得る取り組みを行う。

また、幼児及び高齢者、身障者等の史跡に登城することが難しい事情を抱える者や、雨天で史跡を訪れることができない場合でも史跡への理解を深めることができる施設を目指す。

(3) 基本理念

ガイドンス施設は、市民を始め多くの来訪者に、中世城郭に関する調査・研究の成果を紹介し、棚底城跡及び関連城郭群の価値を理解してもらい、また、これまでとこれからの情報を共有することで交流を深めていく拠点とする。

基本理念：

見て、感じて、楽しみながら歴史を感じる交流拠点

(4) 建設予定地

史跡棚底城跡整備活用基本計画で定めたガイドンスゾーンを踏まえ、支所機能を付与するために棚底地区振興会広場を含む付近の土地を建設予定地(約 8,200 m²)とする。



(5) 建築空間構成の考え方

建設予定地は史跡からほど近い国道沿いにあり、ガイドンス施設としては最適の立地である。ただし、倉岳支所を併設することから、必要とする執務空間及び駐車場等を考慮する。また、天草市景観条例で定める景観形成重点地区であるため、天草市公共事業等景観形成指針に基づいた地域の良い景観と公共空間の形成に向け公共事業等景観形成検討会において協議し、天草市景観審議会において意見を求めなければならない。

具体的には以下の建築要素を踏まえた施設とする。

●外観・構造

- ・建物は耐震構造とし、ユニバーサルデザインを取り入れる。
- ・史跡内の東屋等の施設と統一感を持たせた外観とし、陸屋根は採用しない。
- ・ゆとりのある軒下空間を設ける。
- ・収蔵庫及び展示室は外部環境(特に外壁面や日射)からの影響に配慮した設計とする。
- ・収蔵庫及び展示室への虫の進入等を防止するため、支所側の運用に十分配慮した(ゴミの搬出動線はガイダンス施設側から遠ざける、飲食は展示室及び収蔵庫では禁止する等)構造とする。また、支所側での臭気がガイダンス施設に流入しない換気計画とする。
- ・収蔵庫は限られた面積で効率よく資料を収蔵する集密型ラックの使用が考えられるため、床耐荷重は 750 kg/m²以上を確保する。
- ・資料の破損や湿気によるカビの発生等を防ぐため、展示室には利用者の傘等を持ち込まない運用が可能な構造にする(収蔵庫は文化財関係者以外立入禁止とする)。その他一般的な資料保存対策を施す。
- ・漏水事故を防ぐため、文化財を扱うエリア全てには給排水管を区画内に設置しない。また、消火設備については、区画外からパッケージ型の消火設備で警戒する。

●史跡との接続

天然の堀として機能した棚底川沿いに遊歩道を設置して棚底城跡の登り口へ誘導する。

●植栽

周辺の景観に馴染むよう配慮し、来訪者が楽しめるような樹木及び花等を検討する。敷地内の緑化に努める。

●駐車場

あらゆる来訪者に対応できるよう屋根付き障がい者等用駐車場及び優先駐車場、電気自動車用充電設備、屋根付き駐輪場(自転車・自動二輪車)、大型バス駐車場、一般駐車場を効果的に配置し、イベント時に利用しやすいよう極力車止めは設けない。

●その他

- ・敷地内には、消火栓や掲揚台(2本)、タクシー乗降場を設ける。
- ・ガイダンス施設とその他の空間との境界は明確に区切ることとし、休庁日でもガイダンス施設とトイレが利用できるように施錠を行えるようにする(トイレは24時間利用可能だが、別棟にはしない)。また、利用者のカウントを自動で行えるようにする。
- ・ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の実現に向けた検討を行う。
- ・建物全体(備品類含む)に、天草産材を積極的に使用する。
- ・供用開始後の維持管理修繕が容易かつ安価に行えるよう配慮する。

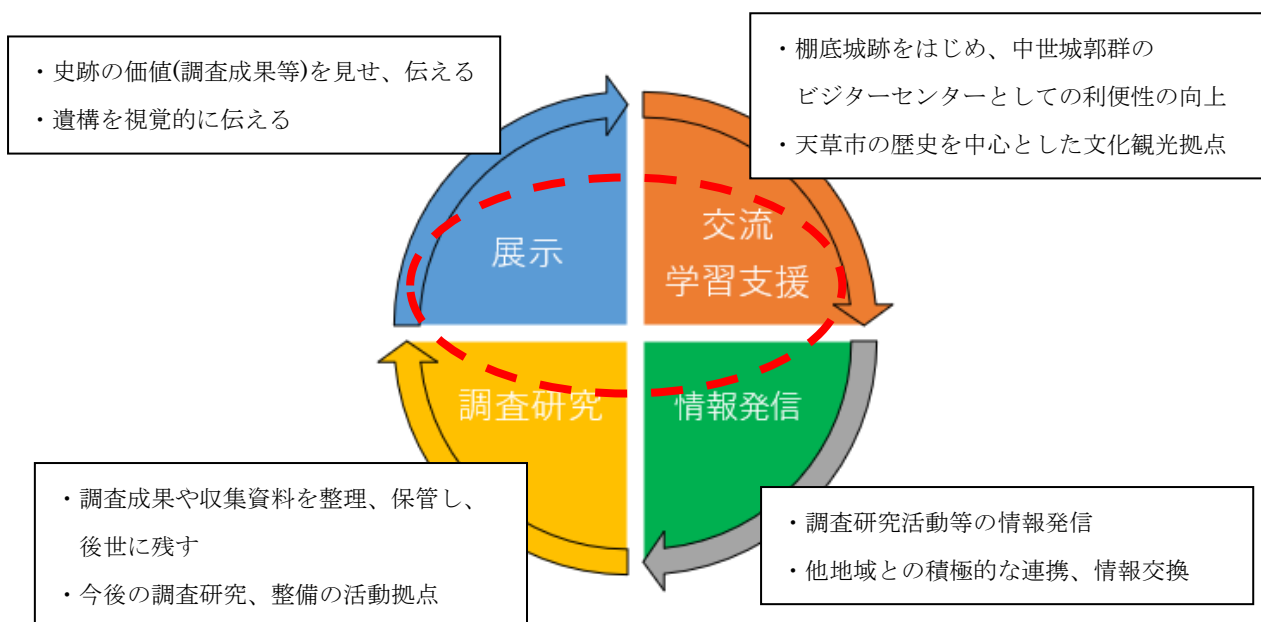
(6)施設に持たせる機能

棚底城跡のような中世城郭は、天守や石垣といった構造物がなく、当時の姿が分かりにくい面がある。現在遺構として視認できるものは、土塁、横堀、竪堀、曲輪、切岸であり、一部は整備工事により建物の表現を行っている。しかし、現在に至るまでの過程で畑としての開墾や崩落による埋没があったことで、地下に埋もれているものがある。このため、本施設ではこれらの面を理解しやすいように表現し、解説する必要がある。これには、ガイダンス施設として展示機能の充実が欠かせない。

本施設の機能として、史跡地外にあるガイダンス施設としてのメリットを活かしながら史跡としての価値を高め、棚底城跡及び関連城郭群の歴史を分かりやすく、視覚的に解説する必要がある。また、史跡への導入としての役割を効果的に果たさなければならない。

この観点から、本施設に付与する機能は①展示、②交流・学習支援、③情報発信、④調査研究とし、特に展示と交流・学習支援は充実すべき機能として位置付ける。

なお、展示内容等は史跡棚底城跡整備検討委員会に諮らなければならない。



1) 展示機能

1. 展示室

① 導入

- 天草諸島の歴史、自然等の概要を紹介し、文化財や考古学の基礎的知識も学べる。

② 棚底城跡コーナー

- 戦国時代の基礎知識と、それを踏まえて史跡の価値を知ることができる。城跡の構造や出土遺物、古文書等に関する展示コーナー。
- 城跡の構造は100分の1スケールの模型(4m×3m程度)のほか、プロジェクタ+マッピング模型も活用し、アナログとデジタルの双方からのアプローチを行う。
- 出土遺物は壁面ケース等に展示し、コンテナの箱数で出土点数を視覚的に認識させる等の工夫を行う。
- 古文書は複製展示ではなく、タッチパネル等によるデジタル機材を用いる。

③ 戦国の天草コーナー

- 棚底城跡に関連する城郭群(中世城郭群の取組み)を知ることによって城郭群としての価値を学べる。
- 天草一揆衆がどのような集団か分かるよう、松浦や菊池、島津まで含めた大型ジオラマや映像等を用いた展示を行う。
- 棚底抗争の動きや相良氏等の動きを視覚的に解説する。

④ 体感コーナー

- 往時の棚底城や天草諸島の再現映像、棚底抗争の再現映像等を大型スクリーンで紹介する。また、ゲームのように体感できる設備を設ける。
- 横堀と土塁の土層剥ぎ取り資料を用いて実寸大で模擬復元し、臨場感を演出するために利用者が実際に土塁を乗り越える等の体験ができるようにする。
- 城跡の形をしたトランポリンを用い、子供が自然と尾根線の上に曲輪を配置した構造を体感できるようにする。
- 乳幼児向けのスペースを設け、壁面に棚底城を主としたイラストを描き、兵士を模したマグネットを貼りつける等の遊びを通じた学びを図る。
- 出土遺物等のぬいぐるみに解説を付ける等、遊びを通じた学びを図る。
- 玩具土嚢を用いて子供が自分なりの城づくりを行うことで、防御機能を体感する。

⑤ 引き継がれてきた歴史コーナー

- 棚底城がどのような特性の土地に立地しているのか、現在も地域に残る文化財を中心に紹介する。
- 防風石垣やコグリ、土地の成り立ち等を紹介する。
※全体として、精巧なイラストやデジタル導入を積極的に検討する。

2) 交流・学習支援機能、情報発信機能

1. 多目的室

- 講座やボランティアガイドによるガイドンスを行う場として設ける。
- 約100人以内に対応できる広さとする。

2. 交流エリア

- 棚底川を挟んで対峙する棚底城跡を窓越しに見ることができ、施設利用者が気軽に利用できるエリアを設ける。
- 他地域との連携事業や、文化財に関する情報等を発信する電光掲示板等を設ける。
- 飲食料品自動販売機を設置する。

3) 調査研究機能

1. 収蔵庫（収蔵品展示室）

- 今後の中世城郭調査の拠点施設になるため、発掘調査道具や出土遺物の収蔵庫として活用する。収蔵品の一部を展示する空間を設ける。
- 発掘調査の図面整理や遺物の実測等が行える作業スペースを設ける。
- 発掘調査報告書等の書籍を収納する書棚を設ける。

4) その他

1. 事務室・機械室

- 事務室は受付窓口を兼ねる。
- 機械室に設置する機材類は、可能な限りガイドンス施設とその他の区分けが明確にできるよう配慮する。

2. トイレ・授乳室

- 男性・女性用のほか、多目的トイレを設ける。また、サニタリーボックスやベビーチェアを個室に設置する。授乳室は、ベビーカーゴと入室できる広さを確保し、粉ミルクを作るための給湯設備とベビーベッド、洗面台を設ける。



桑都日本遺産センター八王子博物館

◇プロジェクタ+マッピング模型



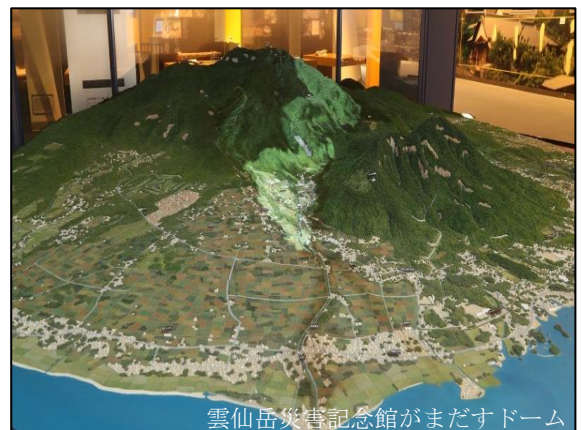
岐阜関ヶ原古戦場記念館

◇大型スクリーン映像



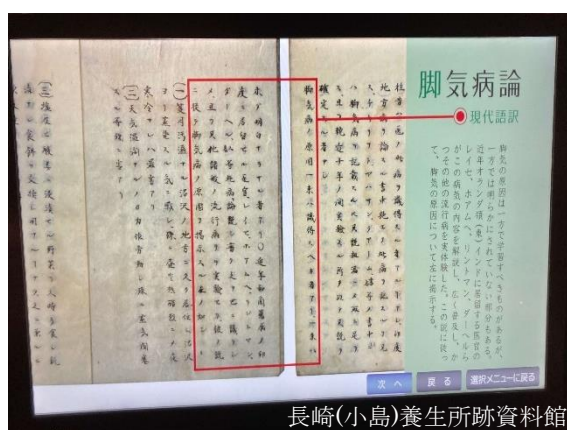
熊本藩川尻米蔵

◇展示グラフィック



雲仙岳災害記念館がまだサドーム

◇大型ジオラマ



長崎(小島)養生所跡資料館

◇タッチパネルによる古文書解説



体感!しだみ古墳群ミュージアム

◇展示室入口

参考写真

(7) 諸室計画と建物規模

各諸室と内容は以下の表となる。詳細は設計段階で検討する。

■ ガイダンス施設

機能	名称	面積	機能別面積	構成比率
展示	展示室	550 m ²	550 m ²	64%
交流 学習支援 ・ 情報発信	多目的室 (スライディングウォールで分割可)	120 m ²	150 m ²	18%
	交流エリア	30 m ²		
調査研究	収蔵庫(収蔵品展示室)	120 m ²	120 m ²	15%
管理	事務室	30 m ²	30 m ²	3%
延床面積		850 m ²	—	100%

■ 支所(共用スペース)機能

名称	面積	構成比率
エントランス	30 m ²	4%
執務室	160 m ²	23%
厚生室(男女各1室)	30 m ²	4%
会議室(2室)	80 m ²	12%
相談室	10 m ²	1%
図書室	100 m ²	14%
トイレ(男・女・多目的)・授乳室	120 m ²	17%
書庫	40 m ²	6%
防災無線放送室	20 m ²	3%
機械室(非常用発電・ガイダンス施設分含)	60 m ²	9%
倉庫	50 m ²	7%
延床面積	700 m ²	100%

※このほか必要な設備等を検討し、総延床面積 1,600 m²程度に収める。

第2章 管理運営計画

(1) 管理運営の考え方

本施設は、史跡棚底城跡及び関連城郭群のガイダンス施設(情報発信・交流拠点)であり、展示・交流及び学習支援・情報発信・調査研究の拠点でもある。また、倉岳支所の併設により倉岳町全体の中心施設になるという特殊性を有している。

本施設の意義は、「市民を始め多くの来訪者に、中世城郭に関する調査研究の成果を紹介し、棚底城跡及び関連城郭群の価値を理解してもらい、また、これまでとこれからの情報を共有することで交流を深めていく拠点とする。」ことにある。

一方、施設の運営にあたっては、来訪者の多様なニーズに対応するため、柔軟な対応が求められる等、施設の役割や機能を考えると管理運営には広い専門的知識や、これからも行われる調査に対応しなければならないという長期継続性も必要になる。

想定される施設運営・管理業務の内容は以下の項目が考えられる。

1. 施設経営(予算確保、年間スケジュール作成、普及啓発等)
2. 調査研究(ガイダンス施設としての展示保守、研究、資料整理・保持等)
3. 交流/支援(学校教育及び生涯教育サポートの実施、イベント、情報発信等)
4. 施設管理(総合案内、利用許可、警備、清掃、設備の保守点検等)

(2) 運営形態

本施設は、支所と併設することにより市直営による管理・運営とする。

(3) 料金設定

史跡は国民的財産であり、そのガイダンスを支所と併設して行う本施設は公共性が高く、多くの人が気軽に繰り返し利用できる開かれた施設でなければならない。この観点から無料施設とすることが望ましい。

特に本施設は支所と併設することのメリットに「支所を訪れた市民にも、史跡の普及啓発が図られる」点がある。これは、ガイダンス施設単体では来訪が見込めなかった(史跡に関心が薄い市民)層に対して有利に作用する可能性が高いということである。たとえ安価であっても料金を徴収することは関心の薄い者にとっては大きなハードルになるため、メリットを最大限に生かすために、本施設は無料とする。

ただし、多目的室については一般利用を想定して事前申込制の団体等使用料を別途設定することを検討する。

参考までに事例調査を行った109施設で完全有料施設は22館(約20%)、完全無料または年齢等で無料枠を設けている施設は87館(約80%)であった。

第3章 実現に向けた課題

(1) 関係機関との協力

- 文化庁、熊本県との連携を密にし、円滑に事業の実施を進める必要がある。
- 同様のテーマを持つ市町村や民間施設との連携を高め、イベントや研究会等を行える関係を築き上げていかなければならない。また、都市圏で行われる大型イベントへの出展に対応できる必要がある。

(2) 体制整備

- 長期にわたる調査研究等事業の実施や施設運営には、多くの人員が必要である。今後は地元ボランティア団体等の人材育成が求められる。

(3) その他

- 本施設に正式名称をつける。また、ロゴマークを作成し、普及啓発に用いる。
- 史跡及び中世城郭群、ガイダンス施設を紹介する専用ホームページを制作・運用する。

※本構想の策定にあたり、次の施設を参考にした。

- ・あまわりパーク歴史文化施設(沖縄県うるま市)
- ・岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンター(岩手県平泉町)
- ・雲仙岳災害記念館がまだすドーム(長崎県島原市)
- ・大野城心のふるさと館(福岡県大野城市)
- ・可児市戦国山城ミュージアム(岐阜県可児市)
- ・岐阜関ヶ原古戦場記念館(岐阜県関ヶ原町)
- ・熊本藩川尻米蔵(熊本県熊本市)
- ・こどもの城(長崎県諫早市)
- ・Gruun おおむら(長崎県大村市)
- ・小牧山城史跡情報館れきしるこまき(愛知県小牧市)
- ・史跡金山城跡ガイダンス施設(群馬県太田市)
- ・全天候型子ども遊戯施設めぐりドーム(長崎県長崎市)
- ・桑都日本遺産センター八王子博物館(東京都八王子市)
- ・体感!しだみ古墳群ミュージアム(愛知県名古屋市)
- ・長崎(小島)養生所跡資料館(長崎県長崎市)
- ・福井洞窟ミュージアム(長崎県佐世保市)
- ・福山城博物館(広島県福山市)
- ・陸前高田市立博物館(岩手県陸前高田市)

